研究部会報告

(2018/3/2)

富山県経営者協会 教育委員会 研究部会

1.研究テーマ

「富山県経営者協会の階層別研修の研究」

《取組目的及び経緯》

規模、業種など様々な事情により自社単独では充実した教育・研修体制を 構築することが難しい企業が県内に多くあることを受け、経営者協会では それらの企業が研修を受けやすい環境を整えるため、階層別教育のスタン ダードを構築し、県内企業に対して提供を行う事によって、富山県企業の 発展に寄与する。

«取り組みのゴール»

部会メンバーの知見を活かし、

「経営者協会の階層別研修の再構築(見直し)」を行う。

2.研究部会メンバーについて(開始時と現在)※敬称略

開始時(2016年)

部会長 沼田(北陸電力) 副部会長 鶴田(日産化学)

副部会長 日下(コーセル)

中村(アイシン軽金属)

杉原(池田模範堂)

山本(三協立山)

太田(武内プレス)

卯尾(トナミ運輸)

近江(富山トヨタ)

布上(ピア)

加藤 (不二越)

佐藤(三菱レイヨン)

中村(リッチェル)

日比野(YKK)

(計14名)

現 在(2018年)

部会長 (空席)

副部会長 近江(富山トヨタ)

副部会長 日比野(YKK)

副部会長 山口(スギノマシン)

中村(アイシン軽金属)

沖中(池田模範堂)

卯尾(トナミ運輸)

沖川(日産化学)

布上(ピア)

加藤(不二越)

北村(北陸電力)

佐藤(三菱ケミカル)

片岡(リッチェル)

(計12名)

3-1.研究計画について(3カ年計画)

2016年度

2017年度

2018年度

企画および実行準備フェーズ

実行フェーズ

《現状把握》

- •交流会の実施
- ・他社の事例調査
- ・企業向けアンケート
- ・ありたい姿検討
- •過去の受講者傾向分析
- ・受講者アンケート分析
- ・階層別教育オブザーブ

«<u>方策立案</u>»

- 各研修の目的、目標設定
- 研修内容の検討、決定
- ベンダーと打合せ
- ・受講後アンケートの設計
- · 経協階層別教育体系図 作成
- キャリアパスの設定
- 新階層別教育の案内 (県内企業向け)

《運用開始》

- 新セミナーオブザーブ
- アンケート結果分析と、来期へのアクション決定
- •満足度調査を実施

研修効果 確認の年

2016年度

《現状把握》

部会企業教育体系 分析

- アンケート実施
- ・部会企業の階層別 教育の共有⇒ポイント抽出
- ・部会企業の階層別教育のポイントまとめ
- ・経協の現教育体系の分析
- ・新教育体系のポイントまとめ

ありたい姿を描く

- ・各企業に求められている人材像
- ・経協の体系で目指す人材像 (どのような人材を育てていくか)
- ・経協会員企業の推移分析 (サービス業が増えているなど)

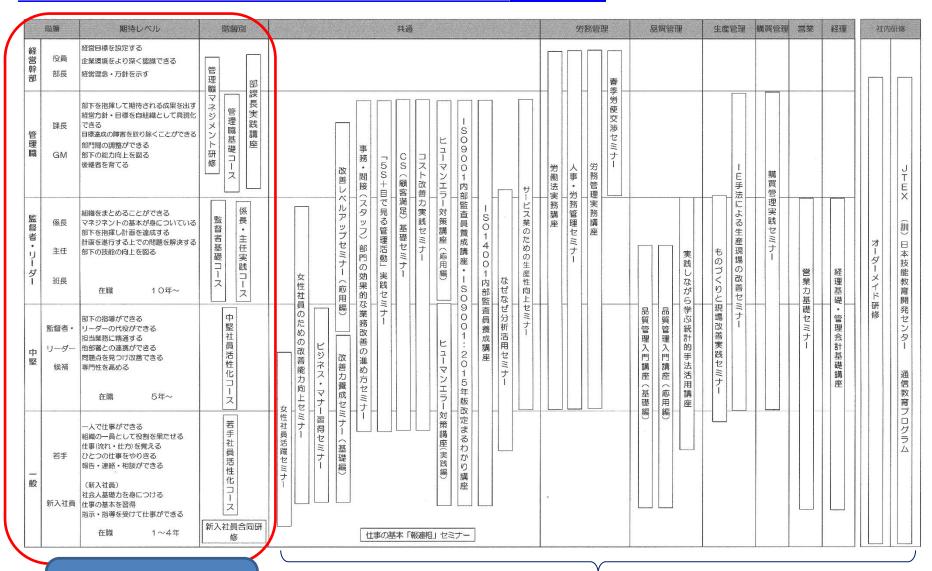
経協セミナー調査

- ・過去のアンケート結果分析(特に自由記述欄の分析を行う) ※階層別教育を中心に
- •アンケート結果まとめ+新教育体系に向けた提言

各企業の全社的人材像を中心に議論を行う。

階層別 教育 たたき台 の作成

4-1.経協の教育体系図-2016年度現在①



階層別研修 (見直しエリア)

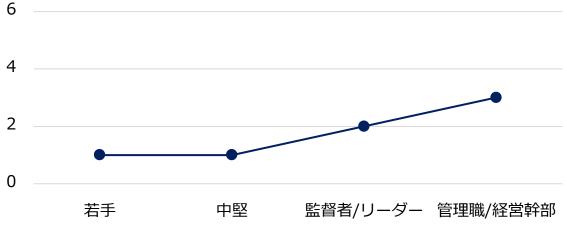
専門教育

4-2.経協の教育体系図-2016年度現在②

	階層	期待レベル	階層別
経営幹部	役員部長	経営目標を設定する 企業環境をより深く認識できる 経営理念・方針を示す	管理部部
管理職	課長 GM	部下を指揮して期待される成果を出す経営方針・目標を自組織として具現化できる 目標達成の障害を取り除くことができる部門間の調整ができる部下の能力向上を図る後継者を育てる	管理職基礎コース 課長実践講座
監督者・リー	係長主任	組織をまとめることができる マネジネントの基本が身についている 部下を指揮し計画を達成する 計画を遂行する上での問題を解決する 部下の技能の向上を図る	監督者基礎コ ニュー・
ダー	班長	在職 10年~	
中堅	監督者・ リーダー 候補	部下の指導ができる リーダーの代役ができる 担当業務に精通する 他部署との連携ができる 問題点を見つけ改善できる 専門性を高める	中堅社員活性化コー
		在職 5年~	若手社
一般	若手	ひとつの仕事をやりきる 報告・連絡・相談ができる (新入社員) 社会人基礎力を身につける 仕事の基本を習得 指示・指導を受けて仕事ができる	員活性化コース
		在職 1~4年	新入社員合同研修

《経協の階層別教育の特徴・課題》

- 管理職以上で、3つの研修が設定され、手 厚い
- 監督者・リーダー(係長クラス)に2つの研修 が設定され、手厚い
- 中堅、一般については、1つのコースのみ の設定
- 人気コース(監督者基礎コースや新入社員 合同研修など)は、100名を超える参加者 となっている
- 各研修は『点』であり、特に繋がりはない
- 研修ごとに、依頼先は様々である



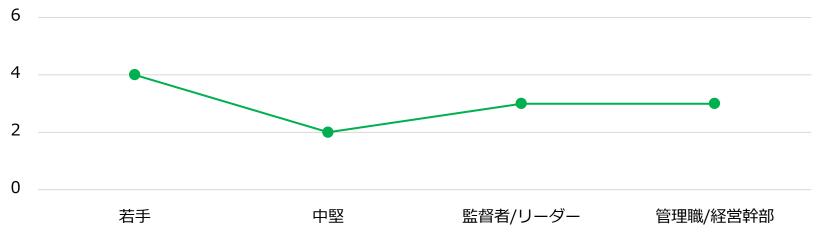
4-3.部会企業のアンケート結果の分析①

(1) 部会企業階層別教育分析

<u>《階層別教育に関するフリーディスカッション(部会企業)</u>》

- 若手には何度も研修を実施している
- 中堅層の研修は少ない → 今後、手厚くしたい
- 3年後~係長まで研修がない
- 上司 部下一緒に研修に関わってもらう
- 昇進/昇格がある人は研修があるが、昇進/昇格がない人は10年以上研修を受講しない人も存在する
- 3年目までの研修は充実している

また、ディスカッションの結果、企業側の研修数(イメージ)は、以下の通りとなった。

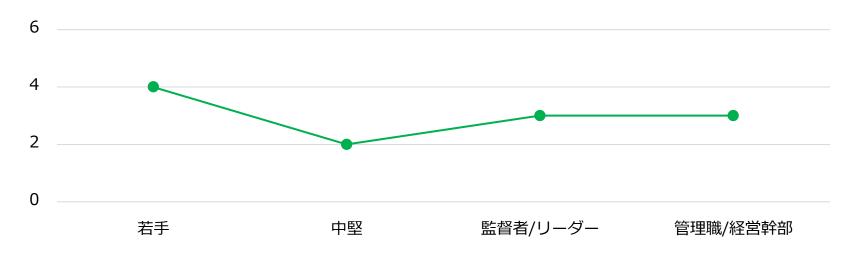


4-4.部会企業のアンケート結果の分析②

(2) 部会企業の階層別教育の研究①

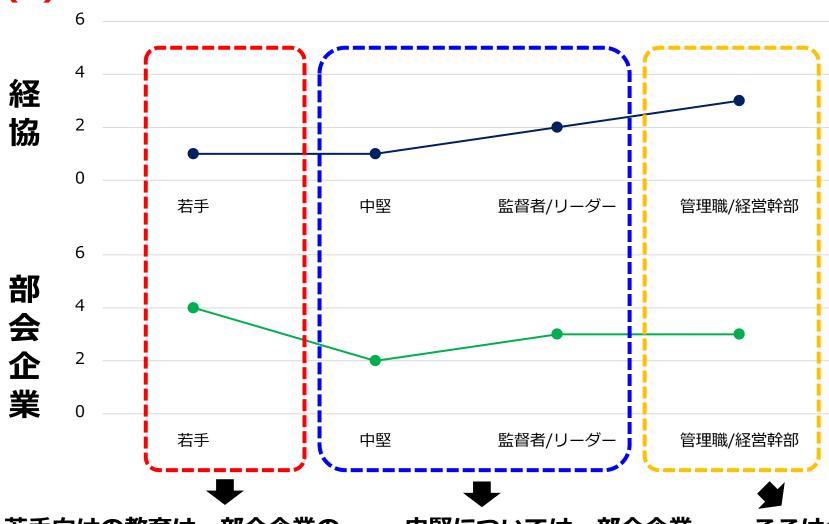
《部会企業の階層別教育分析結果》

- 部会企業においては、入社〜3年後までの間、1年に1回程度何かしら研修を実施されている企業が多い
- 若手に研修を多くする理由は、①成長してほしい、②入社時に描いていた高い理想と現実のギャップを無くす(離職防止)である
- 若手、管理職は体系的に実施しているが、どの会社も中堅社員に向けた研修は弱い(部会企業の中でも手薄になっている)



4-5.部会企業のアンケート結果の分析③

(2) 部会企業の階層別教育の研究②



若手向けの教育は、部会企業の ノウハウを借りながら、内容を 検討する 中堅については、部会企業 のニーズを踏まえながら、 内容を検討する

ここは今後 検討

2017年度

《方策立案》

各階層の定義・期待レベル 作成

部会企業の階層別教育から、階層別要件定義の作成

中堅層・若手層のスキル明確化

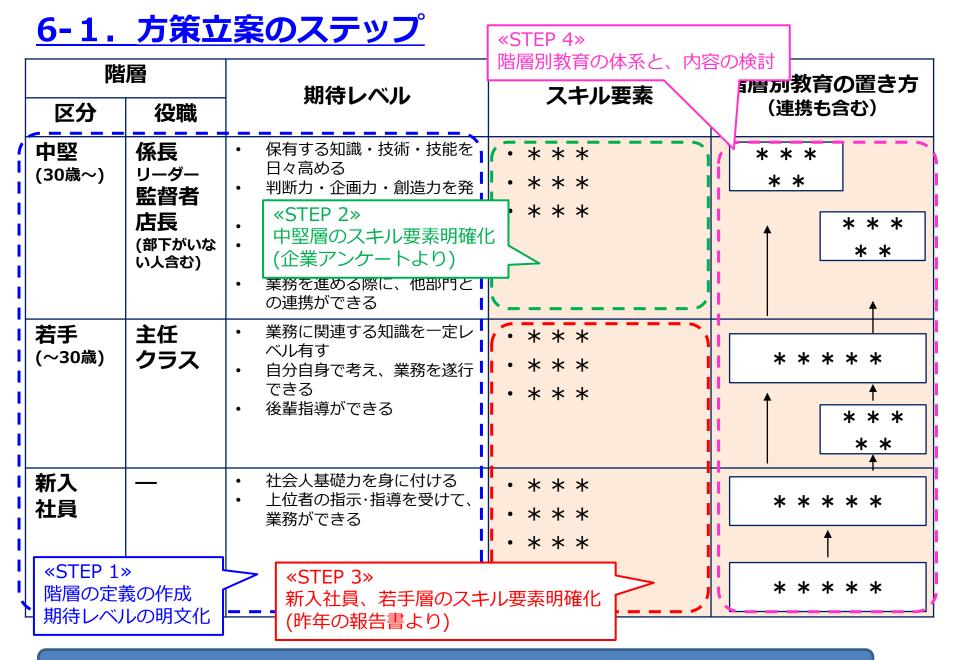
- 各階層のスキルおよびマインド明確化
- ・期待レベル、人材像の設定
- ・利用頻度の高い企業へ、ヒアリング

階層別教育の要件定義

- ・要件定義を確定し、教育ベンダーへ研修の作成依頼(生産性本部)
- ・出来上がった研修内容の確認

階層別教育 体系図の 確 定

<u>階層別の</u>期待レベルを、人材像やスキル、マインドを中心に議論を行う。



6-2. 階層設定の見直し

会員企業は、製造業からサービス業を含めた様々な業種が存在するため、 階層区分を見直したほうが良いと判断。

階層	
区分	
経営幹部	役員
	部長
管理職	課長・
	GM
監督者・リーダー	係長・ 主任・ 班長
中堅	監督者・ リーダー 候補
一般	若手 新入社員



	階層	
	区分	
Ī	経営幹部	役員
		部長
	管理職	課長
	中堅層	係長・ 主任
	若手層	一般社員
	新入社員	新人

階層の区切りを会員企業に対し、判りやすく変更した。

6-3. 階層の再設定と階層の定義の確認

経協教育体系の階層と対応する階層の目安・年齢・職歴

		階層		
区分	•	目安	年齢	職歴
経営幹部	役員			
	部長	次長、工場長		
管理職	課長	課長代理 エリアマネージャー		
中堅層	係長・ 主任	職場リーダー 監督者、班長、 店長、主査	3 0 歳~	
		30歳で一人前		
若手層	一般社員		~30歳	大卒5年目~ 高卒9年目~
				入社2年~4年
新入社員	新人		18歳~ 24歳	新卒新入社員

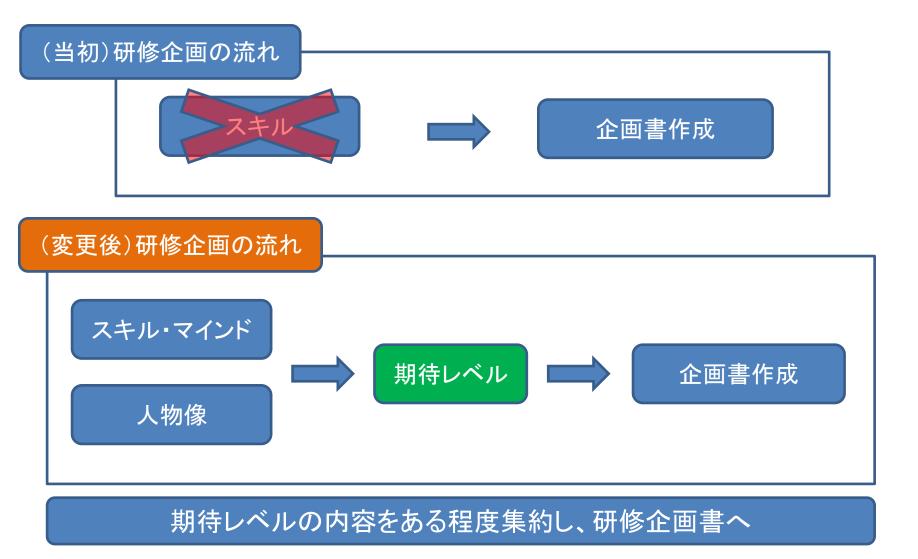
6-4. 階層別要件定義書の作成

富山県のスタンダードとなるよう、部会メンバーで議論を重ね、期待レベル、人物像、スキルを纏めた要件定義書を作成。

	階層	期待レベル	人物像	()比赛O()	共通	III #7 00+1000 7 .
区分	役職	**************************************	A tonax	階層別		研修の枠組み
経営幹部	役員 部長	・中長期を見据えた経営目標・経営戦略が 策定できる ・組織の先頭に立ち、事業展開をリード できる		管理職で、		
管理職 (40歳~)	課長 エリアマネー ジャー	・優れた判断力、管理統率、組織運営力を有す ・部下の指導・育成ができる ・マネジメント能力を発揮し、組織目標 を達成できる		管理職基礎コース		
中堅	係長 リーダー	・保有する知識・技術・技能を自主的に 高めることができる ・判断力・企画力・創造力を発揮できる	管理職の補佐として、定例業務のマネジメントを行い、また、部下の指導育成も行う。 ・係長主任の役割を実践できるレベル ・他部署にも目配りができる ・業務を遂行するためのマネジメントができる ・コンセプチュアルスキルやヒューマンスキルのウェートが高い(経営視点)。 ・情報を集めて概念化する力(経験からくる力) ・部署を統率する。仕事・目標を部下に割り当てる。一時評価をする。 ・部下育成ができる→仕事を分け与え、成長させ評価し、次に回す(PDCA)。 (部下がいる人)	職場リーダー実践		 《経験豊富な方》 ①中堅社員としての役割再認識(マインド) ②保有する知識・技術・技能を自主的に高めることができる ③後輩育成ができる(傾聴スキル)※コーチング ④上長と後輩の間の橋渡しができる ●目的観をしっかり持たせる ・役職の補佐
中室(30歳~)	監督者 定 意見	企業独自の文化を 量かれている環境が 見が異なる部分でも 議論を重ね、丁寧に 集約を行う。	ら、	職場リーダー基本	監督者基礎コース	《若手世代の方》 ④中堅社員としての役割認識(マインド) ②保有する知識・技術・技能を自主的に高めることができる ⑤判断力・企画力・創造力を発揮できる ④業務を進める際に、他部門との連携ができる ●後輩の育成、教育※ティーチング 中堅初級講座

6-5. 各階層の研修企画の流れ

研修企画を行う段階で、スキルから企画を行おうとしましたが、部会では 難しいと判断し、流れを変更して企画を実施。



6-6. 階層別教育体系に関する企業へヒアリング実施

作成した階層別教育体系図(案)について、会員企業へヒアリングを行い、 変更の意図が理解いただけるか確認を実施。

【ヒアリング対象企業】

A社(化学工業、250名)

B社(設備工事業、170名)

C社(輸送用機械器具製造業、230名)

D社(飲食料品卸売業、70名)

【企業選定基準】

- ・毎年、同程度の人数を研修に出している企業
- ・各階層へ幅広く人数を出している企業

【ヒアリング項目】 (沼田 旧部会長、事務局安田氏で実施)

- ①経営者協会の階層別教育を利用されている理由
- ②どのような基準で研修を選んでいるか
- ③経営者協会の階層別研修は、御社の教育体系でどのような位置付けか
- ④受講いただいている研修の満足度
- ⑤階層別研修に対する改善の要望点

6-7. 階層別教育体系に関する企業ヒアリング結果

経協が新たに作成した階層別教育の案に対する、会員企業へのヒアリング 結果は次のとおり。

ヒアリング先	ヒアリング結果
A社	職場リーダー基本コースと、監督者基礎コースの違いがわからない。 35歳~45歳の役職のない中堅層のモチベーションを上げる研修が 欲しい。
B社	職場リーダー基本コースと、実践コースを分けたことはわかりやすい。 入社2~3年までの、社会人基礎力の必要性を感じている。 また、異業種交流があり、メリットを感じている。
C社	現状の経協の研修については、評価しており、また、今回の見直し 後の体系図もわかりやすい。新人研修は、1日コースでは短いため、 2日間コースにしてほしい。
D社	階層の区切りについて、年齢の目安がわかるようになってわかりや すいが、学歴別の勤続年数も入っていたほうが良いと思う。

研究部会で作成した階層教育案については、概ね良好との評価。

6-8. 新階層別教育体系図(ヒアリング後の最終案)

階層別教育体系図 変更案

	層別教育体系	発持レベル	階層の目安	年齢の目安	縁歴の目安	R	生曜 別		共通
组称导数	没 員 部長	・全社の目的、目標達成に責任を持つ(成果) ・中長期を見落えた経営目標、経営戦略が策定する ・組織の先頭に立ち、事業表開をリードする ・社員のモチベーションを向上できるよう関わる	次長工場長				管理様マネジメン	部課長実践講	
管理機	基表	・担当相様、チームの目的、目標達成に責任を持つ(成果) ・優れたリーダーシップとマネジメント力を発揮し、 複雑で水空動の栄養部ができる(スキル) ・長期的な視点で部下の管理・指導・育成を行う (スキル・マインド) ・社内外において幅広く側をかけ力を発揮している。(スキル)	エリア マネージャー 課長代理			管理職基礎コース	ント研修	. 護	
ф Е	保長・主任	チームの目的、目標達成に向かって収集を出ず(収集) 上長と終輩の構変しや他部門との連携など、社内において 働きかけ力を発揮している。 判断力、企関力、制造力を発揮し、非定型的な業器ができる	店長 監督者 班長 縁傷リーダー	30 & -		実践コース			
•		(スキル) ・部下接輩の育成ができる (スキル・マインド) ・保育する知識、技術、技能を自主的に高めることができる (スキル・マインド)	主直			基本コース	監督者基礎コース		
若手		・チームの一員として自分の与えられた仕事を完結できる(成果) ・定型的な業話を迅速、正確に処理できる(スキル) ・与えられた業務に対して自分なりの工夫、改善を加えられる (スキル・マインド)		-30₩	大卒社員 5年日一 真卒社員 9年日一	若手社員実際コース			チームビルディング セミナー (板)
•	一般社員	後輩の相談役としてフォローできる。 (スキル・マインド)			入社2年一4年	アステップ 研修			
新入社員	新人	・上位者の指示、招導を受けて、業務ができる(スキル・収集) ・社会人基礎力を急に付ける姿勢がある。(マインド) ※「社会人基礎力とは、「前に鳴み出す力」(主体性・過ぎかけカ・実行力)、「各名版く力」(無軽無力・計画カ・報金力)、「チームで減く 力」(発展力・規模力・調度力・制度力・ストレスコントロールカ)の3つの成力(12の成力実力)がら構成されており、「連携や地域社会で表情な人々と仕事をしているとから必要な基礎的な力」として、経済を 発音が2006年から指導している。		18 48 —	新辛新入社員	新入社員合同研修	東ノ初興 ニュロー	t 1	



各階層において、 階層に入ったばかりの人と、あるした 度時間が経過した 人では、習熟度に 違いが出ては。 そのため、期待 でいが変化。

各階層研修は、 基本編と実践編の ペアで設定。

6-9. 要件定義及び定義書の作成

部会メンバーで検討を行った期待レベルを基に、研修企画書を作成。

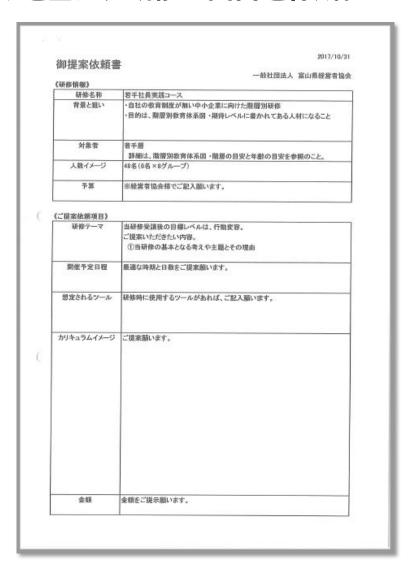
【要件定義を行ったコース】

- ・職場リーダー基本コース
- ・職場リーダー実践コース
- ・若手社員実践コース

【<u>要件定義の内容および項目</u>】

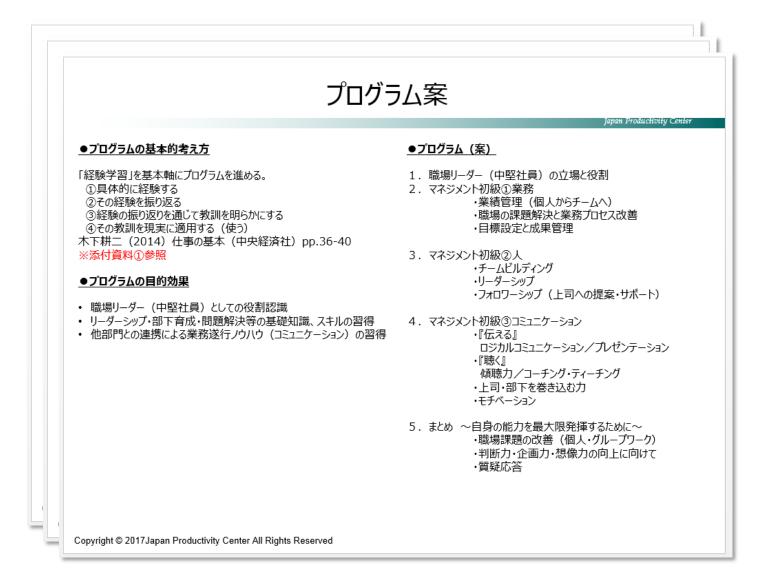
池田模範堂様で使用されている 研修企画書を用いて定義

- ・研修の狙い
- ・対象者
- ・人数イメージ
- ・研修テーマ 等



6-10. 教育機関提案のカリキュラム内容を確認

要件定義書により、日本生産性本部から提案いただいたコース内容を、部会メンバーで確認を行い、研究部会の想いと合致しているか確認。



6-11. 2018年度 人材育成体系図の完成

2018年度 人材育成体系図

	階層	期待レベル	楷層別研修	3				共通	(目的	別)						労務(管理		7月管理	1		生産	管理		購買管理	営業	経理	社	内研修
経営幹部		・全社の目的・目標達成に責任を持つ ・ 社内外の環境変化を踏まえ、中長期の経営目標・経営戦略が既定できる ・ 組織の小頭に立ち、事業展開をリードする ・ 社員のモチベーションを向上できる	管理職マネ	部課長													春季労使												
管理職	課長	 担当組織、チームの目的・目標達成に責任を持つ 優れたリーダーシップとマネジメント力を発揮し、複雑で類易度の高い業務ができる 中長期的な視点で、部下の指導・育成ができる 社内外において幅広く連携し、業務を遂行できる 	管理職基礎コース	実践講座				会議の生産性を向上するビジネス・働き方改革を推進する業	CS(顧	改善レベルアップロ		ヒュー	ヒコー		労働法実	人事・労	交渉セミナー						I E 手	1500-1					J-LC
中取	係長·主任	チームの目的・目標達成に向かって成果を出す 上長や後輩との構造しおよび他部門と連携し、業務を遂行できる 企画力・適造力を発揮しながら業務を判断し遂行	実践コース					カアシー 務仕組	1	セミナー(応用編)	-sc	マンエラー未供	ーマンエラー対策講	なぜ	実務講座	労務管理セミナー				実践しな		ものづくりと現場改	E手法による生産現場の	と目で見る管理実践セ	購買管理実践セミナー	営業	経	オーダー	本技
堅層		できる。部下または後輩の指導・育成ができる。 ・部下または後輩の指導・育成ができる。 ・知講・技術・技能を自主的に高める意欲がある	基本コース 監督 監督	ー ス	ラ 1 上 力 に	家を与える	女	リテーター養成講座の化セミナー	11 3	改善力養成セ	14001内部監	セミナー	座(実践編)	なぜ分析活用セミナ			労務管理実務講		品質	がら学ぶ統計的手	ものづくり女は	図善実践セミナー	改善セミナー	ミナー	,	業力基礎セミナー	理基礎・管理会計基	- メイド研修	能教育開発センター
若手層	一般社員	チームの一員として自分の与えられた仕事を完結 できる 定型的な業務を迅速・正確に処理できる 与えられた業務を迅速・正確に処理できる ちなんれた業務に対して自分なりの工夫・改善を	若手社員実践		上もミブー	コミュニケーション	性社員活躍セミナー			一(基	查員養成講座 	on the Cristian		í			座	日質	(管理入門講座(実践	法活用講座	性社員のための改善								通信教育プログ
ト間	TRALE	・ 多まの相談役としてフォローできる	若手社員ステップコース		仕事の基本「報	力向上セミナー												品質管理入門講座(基礎	編)		力向上セミナー								ログラム
新入社員	新人	・上位者の指示・指導を受けて業務ができる ・社会人基礎力を身に付ける姿勢がある ※「社会人基礎力とは「前に踏み出す力」に体性・働きかけ カ・東行力、「官名抜く力」、提覧発見力、計画力・働流力、「チーム で電く力、例像力・関節・支地性・情況限度力、別乗性・ストレス コントロール力の3つの能力112の能力要素から構成されてお り、「電域や地域社会で多能な人を仕事をしていくために必要 な基礎的な力」として経済産業省が2006年から環場している	祖員合	新入社	報連相」セミナー													編)											

階層別研修

7. まとめ (成果)

- ▶ サービス業も含めた、経協の新しい「階層の定義」 と「期待レベル」を定めた。
- ≫新入社員、若手社員、中堅社員の各階層における 「学ぶべき要素」を明確化した。
- ▶ 各階層において、「スキル」だけに注目するのでは なく、「マインド」も含めた「人物」全体を捉えな がら、研修の設定を行った。
- ➢ 経協の会員企業の意見を反映したスタンダードな研修体系を構築した。

8. 今後 (2018年度以降) の予定

- ▶ アンケート結果分析と、 来期に向けた講座内容の修正取り纏め (2018年10~11月頃)
- 研修満足度調査の実施、管理職以上の研修の見直し

(2019年度以降)

上記の予定で進めていく予定です。 今後ともよろしくお願いいたします。